

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地															
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地															
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111															
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士														
工業	工科技術専門課程		機械設計科			平成27年文部科学省認定	-														
学科の目的	最新の専門的な知識と技術を身に付け、現代社会に対応した職業人としての自負と実力を蓄積し、社会の中堅たる得る人材を養成する。機械設計科では設計ツールとして一般化したCADスキルから先端技術である3D造形まで「ものづくり」のプロセスを幅広く学習し、AIやIoTなど次世代に対応した自動車、精密機械、電子・電気をはじめ多様な業界で活躍できる技術者の養成を目的としている。																				
認定年月日	平成29年2月28日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
2年	昼間	1,710	780	0	1,110	0	0														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
80人		46人	1人	4人	0人	4人															
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下不合格 P:単位認定																
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月7日～9月9日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月19日～3月31日			卒業・進級条件	【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、工場・企業見学、学科・企業連携プロジェクト  ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等  (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>3DCAD利用技術者</td> <td>③</td> <td>35人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③	35人	32人	3DCAD利用技術者	③	35人	26人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																		
ビジネス能力検定	③	35人	32人																		
3DCAD利用技術者	③	35人	26人																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) (株)東京精密、KYB(株)、多摩冶金(株)、(株)オートテックジャパン、(株)マテリアル 他 ■就職指導内容 合同企業説明会、個別企業説明会、業界研究会、個人面談を経て自己分析、履歴書作成、面接練習などを行う ■卒業生数 : 35 人 ■就職希望者数 : 32 人 ■就職者数 : 32 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92 % ■その他 ・大学編入 3人  (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 ・企業課題からものづくりの企画設計、詳細設計、機械加工技術を習得する ・3次元CAD利用技術者 1級合格者のうち1名 優秀表彰(満点合格) ・全国工業																
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 2% 令和3年4月1日時点において、在学者61名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者58名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 就職 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングループ等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。																				

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>【片柳学園入学金免除制度】 学校法人片柳学園の設置する学校の卒業生の子女、兄弟姉妹および孫、または在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度</p> <p>【若きつくりびと奨学金制度】 社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金を給付する制度（成績優秀者特待生・課外活動優秀者特待生・資格特待生・就学支援奨学金・再進学特待生・留学生特待生）</p> <p>【再入学優遇制度】 日本工学院専門学校または日本工学院八王子専門学校の二年制学科以上の学科を卒業または卒業見込みの方が、本校の他学科への再入学を希望する際、入学選考料・入学金の免除、および審査により授業料等を減免する制度</p> <p>【留学生特別給付制度】 私費留学生の出願者全員を対象とし、入学選考試験の成績優秀者には進学支援として、入学金の一部または全額を免除する制度</p> <p>【ミュージシャン特待生】 ミュージックアーティスト科に特待生として出願し、試験に合格された方は、入学費用のうち入学金を免除する制度</p> <p>【サッカー・テニス特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって以下のいずれかを免除する制度（入学手続時納入金免除、入学費用のうち前期授業料免除、入学費用のうち入学金免除、入学費用のうち入学金の一部を免除）</p> <p>【スポーツ特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制・スポーツトレーナー科・スポーツトレーナー科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって入学費用のうち入学金または入学金の一部を免除する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 <a href="http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/">http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</a></p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p><a href="https://www.neec.ac.jp/department/">https://www.neec.ac.jp/department/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

機械設計に関わる企業等へのヒアリングを適時実施し、機械設計の実務に関する知識・技術を調査してカリキュラムに反映させる。さらに、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。常に授業内容や方法を検証することにより実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青木 邦貴	HFA(Hachioji Future Association)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	①
内野 真治	株式会社 ナラハラオートテクニカル 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
北島 伸高	株式会社 ケイアイ 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
菅 禎彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 2021年09月09日 14:00～16:00

第2回 2022年04月06日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

企業が求める人材に対する意見から、設計知識や技術だけではなく「人間的魅力」がある人材育成を目的とし、学科横断プロジェクトや、外部講師・学校顧問の授業を増やし、人間力に対する成長の機会を増加した。今後、更に座学と実習の好循環な学びを促進する為、2023年度に向けたカリキュラムの見直しを継続的に検討中。また、成績評価方法の見直しに関する意見に対し、定量的な評価が困難な科目において、第三者評価を取入れ、自己評価とのギャップと照らし合わせる事で、成長のきっかけを与える新しい成績評価方法を2021年度から学科の一部科目で導入した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実務に則した製品開発の企画及び機械加工機の使用方法的理解と技術習得するため、最新の製品情報や加工機等の専門技術および社会人基礎力養成の助言、協力の得られる企業を選定する。

## (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業との連携により、機械設計に関わる基礎知識からAIやIoTを理解した製品設計に関わる知識の習得とCADおよび3Dプリンター、レーザ加工機など先端加工機の使用方法及び製品開発の企画から設計に至るプロセスを実習により身に付ける。また、カリキュラム内容に関して現場が求める最新動向についてアドバイスをいただき、実際の製品製作において設計計算書、図面、部品加工、組み立て作業まで一連の設計手順を実践し、製品を卒業制作展に出展、プレゼンテーションを行う。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

## (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
機械の設計	標準規格の意義を説明でき、許容応力、安全率、疲労破壊、応力集中の意味を理解し、標準規格を機械設計に適用する設計を学びます。	(株)アビスト
CAD設計実習3	CADシステムを実践的に活用し、設計演習により設計力を養成します。	(株)アイビエフ
CAD設計実習4	CADシステムを実践的に活用し、卒業製作作品の設計に取り組みます。	(株)アイビエフ
ものづくり基礎実習1	ものづくりに必要な加工道具および計測機器の使い方と計測の定義と種類と測定誤差の原因と種類、精度と不確かさ、国際単位系の構成を理解し、SI単位およびSI接頭語を実習形式で学びます。工作機械の使用方法も合わせて学びます。	(株)カンセツ

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高め、且つ技術の鮮度を維持するため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

### (2) 研修等の実績

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「【オンデマンドセミナー】CNC基本(マシニングセンタ系) コース」

(連携企業等:ファナック株式会社)

期間:令和3年11月

対象:機械設計科教員

高度加工実習で使用するロボドリルの基本機能を改めて周知する為、ファナック社のオンデマンドセミナーを機械設計科教員で受講し、基本機能・CNC工作機の構造の理解とメンテナンス方法の理解を深めた。

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「基礎カリサーチ説明会ならびに、今後の授業、学生対応方針検討」

(連携企業等:株式会社進研アド 営業本部 専門学校事業部)

期間:令和3年7月及び、令和4年1月

対象:機械設計科教員

基礎カリサーチを対象学年が前期・後期で受験し、その結果に対する対策検討を学科内でワークショップを実施。次年度の授業へフィードバックを実施。

研修名「ゲーミフィケーションの有効性」

(連携企業等:日本ゲーミフィケーション協会)

期間:令和3年7月

対象:日本工学院八王子専門学校教員

アクティブラーニング実践に向けた教育手法として、ゲーミフィケーションを学習。学生の能動的な学習に通じる、モチベーションメソッドを体験し授業へ活用。

研修名「学生指導(メンタル面)における対応について」

(連携企業等:東京工科大学医療保健学部)

期間:令和3年12月7日

対象:日本工学院八王子専門学校教員

コロナ禍において、学生メンタルでの学生指導を事例を通じ、対応方法を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「八王子ものづくり魅力発見ツアー」

(連携企業等:八王子近隣企業)

期間:令和4年 実施予定

八王子近隣のものづくり企業の工場、作業を見学。ものづくりに必要な技術や知識などを学ぶ。また、製品の製造として重要となる品質管理について技術者より直接話を聞き学ぶ。

研修名「製図・検図に関する実践活用」

(連携企業等:アビスト)

期間:令和4年 10月予定

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「基礎カリサーチ説明会ならびに、今後の授業、学生対応方針検討」

(連携企業等:株式会社進研アド 営業本部 専門学校事業部)

期間:令和4年7月

対象:機械設計科教員

基礎カリサーチの結果を元に、夏休み明けからの実施に向けて、学科で重点的に指導を行う点、手法を検討。実施に向けて教員間の情報共有、意思統一を図る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	(1)理念・目的・育成人材像
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

**(3) 学校関係者評価結果の活用状況**

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について  
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・コロナ禍の予測不能の事態や学生への対応が実に丁寧になされ成果を上げていることが理解できました。理事長を先頭に新たな取り組みも着実に進められていることに敬服します。
- ・SDGsに関連する学校としての取り組み。実質、関連項目や実施している事はあるかもしれないが、説明のなかで「SDGs」という言葉が出てこなかった。関連する内容には入れても良いと思います。
- ・各分野において情報は常に更新されているので、教職員の方々の知識・情報もアップデートが重要と考えます。月1回の研修の成果・効果を確認するような取組も検討してはいかがでしょうか。
- ・コロナ禍において情報の収集・管理については難しい点も多いと思いますが、校友会・卒業生就職先とのコミュニケーション強化に努めていただければと思います。
- ・既に検討されていることと思いますが、保護者会もオンラインで開催するなど遠方でも参加できるような取組をされてもいいかと思ひます(環境によってオンラインが難しい場合などは個別に電話対応など。すでに実施されていたらご容赦下さい)。
- ・コロナ禍及びワクチン接種も個人の考えで必須に出来ない中、日本工学院八王子専門学校様の対応を含めた活動は非常に参考となり、勇気をもたらせるものでもありました。政府が明確な線引きをしていない現状では、企業も学校も探りさぐりにはなっていますが、多角的な面で情報交換を行い、この状況を乗り切っていければと思います。
- ・丁寧なご説明有難うございました。コロナ禍において、教育目標に掲げる「スチューデントファースト」を実現することは容易ではないと思ひますが、製作室や実習等の新設などの取組みによって学生のモチベーションが上がることを期待します。また、私はテレビ技術会社の採用担当として、貴校からの応募者と毎年向き合っておりますが、近年、「どうしてもこの仕事に就きたい」という意気込みを持った学生さんが少なくなったように感じます。実際の現場で必要な技術は学校だけで習得できるものではありませんが、その魅力・楽しさをお伝えいただき、専門職に夢を持った「若きつくりびと」を多く輩出していただきたいと願っております。
- ・教職員の研修も外部のオンライン研修などを活用してはいかがでしょうか。外部のコンテンツを利用することで学内コンテンツを増やすヒントにはないかと思ひます。
- ・コロナ禍において進路決定率が上がったことは素晴らしいことであったが退学率が上がっている学科が気になりました。
- ・株主総会もオンラインの時代ですので保護者会もオンラインで出来たのではないのでしょうか。
- ・工学院の名前に合ったネットワーク、ICT等の環境を整えて上げてください。
- ・時節柄、授業を実施する事や様々な学生支援に工夫をされている事が十分に理解する事が出来、いつものことですが、感心させられる事ばかりでした。今後は、学生への「心のケア」をして頂ければと思ひます。メンタルトレーニング的なものも取り入れても良いかと思ひます。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. コロナ禍において、教育目標に掲げる「学生中心主義」を教職員一丸となり実行する。
2. 学生・保護者からの要望に応えられるよう、今後とも万全な体制を整える。
3. 質の良い授業(オンライン授業含め)を提供できるよう、教員のスキルアップのための研修等を充実させる。
4. withコロナの新しい時代における高専連携・地域貢献・地域連携を模索していく。

**(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿**

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生/ IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	医療 企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

**(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期**

ホームページ 令和4年9月30日  
URL:<https://www.nec.ac.jp/public/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和3年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程機械設計科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル	就職活動の導入教育として、ビジネスマナーを身につけます。身だしなみ、挨拶、言葉づかい等を再確認し修正します。社会人として必要な礼儀作法・時事情報を学び、ビジネス能力検定3級取得をめざします。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			キャリアデザイン1	論理的思考と論理的文章の作成、コミュニケーションやディベートなどの訓練をします。自分の適正を理解するとともに、企業交流・講演を通じ、企業選定の方向付けのヒントを得たり、一般常識問題を解く練習を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
3			○	スポーツ実習1	スポーツを通じ心身を鍛え人間力を高めます。	1・後	30	1			○		○	○		
4	○			機械の設計	標準規格の意義を説明でき、許容応力、安全率、疲労破壊、応力集中の意味を理解し、標準規格を機械設計に適用する製図法と設計を学びます。	1・後	60	4	○			○				○ ○
5	○			工業デザイン	アイソメ図やテクニカルイラストを通して図形表現を理解することで図面読解力を高め、投影図法や機械製図法につながる知識を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
6	○			工業力学1	力は、大きさ、向き、作用する点によって表されることを理解し、一点に作用する力の合成と分解を図での表現方法、合力と分力の計算と一点に作用する力のつりあい条件、力のモーメントの意味を理解し、機械設計に必要なとされる力学の基礎的な計算方法を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
7	○			工業力学2	偶力のモーメントが計算でき着力点が異なる力のつりあい条件平板および立体の重心位置速度と加速度の意味を理解して、運動の第一法則(慣性の法則)、第二法則、第三法則(作用反作用の法則)を学び、機械設計に必要な力学の理解を深堀りします。	1・後	30	2	○			○		○		
8	○			力学の活用基礎	荷重が作用した時の材料の変形、応力とひずみ、フックの法則を理解して弾性係数、許容応力と安全率や不静定問題について線膨張係数の意味を理解し、熱応力、引張荷重や圧縮荷重が作用する棒のせん断ひずみとせん断応力や変形の計算を学び、力学の具体的な活用手法を習得します。	1・後	30	2	○			○		○		
9	○			機械材料の加工	機械材料に求められる性質を理解し、金属材料、非金属材料、複合材料、機能性材料の性質と用途を機械材料として用いられる材料の特徴を学び、その加工方法、切削加工方法、熱処理方法など、金属として必要な知識を学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
10	○			工業数学1	機械設計に必要なとされる四則計算、文字式、方程式、三角関数の解き方など力学計算に必要な数学的手法を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
11			○	工業数学2	機械設計で重要とされる材料力学、応力とひずみ等の計算に必要な数学的手法を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
12			○	検定対策講座1	CADを概念から体系的に学習し、3DCAD利用技術者試験、2DCAD利用技術者をはじめ各種検定試験合格を目指します。	1・通	30	2	○			○		○		
13			○	検定対策講座2	CADを概念から体系的に学習し、3DCAD利用技術者試験、2DCAD利用技術者をはじめ各種検定試験合格を目指します。	1・通	30	2	○			○		○		
14	○			CAD設計実習1	CADソフトを基礎から単独でモデリングができるレベルまで学習します。また、図面の読解やCADデータ管理システムを活用した設計法、CAD周辺機器について学びます。	1・前	90	3			○	○		○		
15	○			CAD設計実習2	CADソフトを基礎から単独でモデリングができるレベルまで学習します。また、図面の読解やCADデータ管理システムを活用した設計法、CAD周辺機器について学びます。	1・後	90	3			○	○		○		
16	○			ものづくり基礎実習1	ものづくりに必要な加工道具および計測機器の使い方と計測の定義と種類と測定誤差の原因と種類、精度と不確かさ、国際単位系の構成を理解し、SI単位およびSI接頭語を実習形式で学びます。また、機械設計に必要なとされる基礎知識(電気、エンジン、板金、製図法)や工作機械の使用法も合わせて学びます。	1・前	90	3			○	○			○ ○	

授業科目等の概要

(工科技術専門課程機械設計科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
17	○		ものづくり基礎実習2	ものづくりに必要な加工道具および計測機器の使い方と計測の定義と種類と測定誤差の原因と種類、精度と不確かさ、国際単位系の構成を理解し、SI単位およびSI接頭語を実習形式で学びます。また、機械設計に必要とされる基礎知識(電気、エンジン、板金、製図法)や工作機械の使用方も合わせて学びます。	1・後	90	3			○	○		○		
18	○		機械加工実習1	与えられた条件を基に課題の完成を目指して、加工図面の作成を基に、機械加工の作業及び加工に付随する様々な作業を体験し技術を習得します。	1・前	60	2			○	○		○		
19	○		機械加工実習2	与えられた条件を基に課題の完成を目指して、加工図面の作成を基に、機械加工の作業及び加工に付随する様々な作業を体験し技術を習得します。	1・後	60	2			○	○		○		
20	○		キャリアデザイン2	ビジネスの現場で必要となる、スケジュール管理や情報活用術、事例研究などを通じ、行動・人間関係の構築術などを学びます。就職内定先に将来必要と思われる資格取得に向けての勉強を行います。	2・前	30	2	○				○		○	
21		○	スポーツ実習2	スポーツを通じ心身を鍛え人間力を高めます。	2・後	30	1			○		○	○		
22	○		機械の要素設計	ボルト・ナット、軸継手、軸受、歯車などの機械要素の図面歯車減速装置などを題材に、その主要部の設計および製図法、許容応力、安全率、疲労破壊、応力集中の意味を理解して標準規格を機械設計に適用した設計を学びます。	2・後	60	4	○				○		○	
23	○		機械の製図	機械部品図や組立図を作成し、製図法の理解を深め、図面を読む能力を身につけます。	2・前	60	4	○				○		○	
24	○		ものづくりの力学	構造体に関わる力学的関係の解法を学びます。設計計算書作成に必要な知識や術を得ます。	2・前	30	2	○				○		○	
25	○		力学の活用実践	各自が考えた構造体に対して、設計計算書を作成します。	2・後	60	4	○				○		○	
26	○		メカトロニクス	機械の自動化技術であるコンピュータ制御やデジタル回路を学び、機械システムに必要な技術であることを知ります。	2・後	30	2	○				○		○	
27	○		生産の仕組み	生産の歴史から生産に関する流れと品質管理手法及び生産活動に必要な知識を学びます。	2・前	30	2	○				○		○	
28		○	ものづくりの数学	構造体の力学解析をするために必要な数学的高等手段を微分積分をはじめマトリクス法など学ぶことで力学解析を学びCAE(Computer Aided Engineering)を利用したできるだけ少ない試作回数で、素性のよい、高品質な製品開発を行うための設計技術を学びます。	2・前	30	2	○				○		○	
29		○	検定対策講座3	3DCAD利用技術者試験、2DCAD利用技術者をはじめ各種検定試験合格を目指します。	2・通	30	2	○				○		○	
30	○		CAD設計実習3	CADシステムを実践的に活用し、設計演習により設計力を養成します。	2・前	90	3			○	○			○	○
31	○		CAD設計実習4	CADシステムを実践的に活用し、卒業製作作品の設計に取り組みます。	2・後	90	3			○	○			○	○
32	○		高度加工実習1	高度な機械加工機を使用するための知識と技術を身につけます。その他、加工に必要な様々な技術を学びます。	2・前	90	3			○	○			○	
33	○		高度加工実習2	卒業制作を通して必要な部品の加工プロセスを作成しそれを基に、機械加工機などを使用して部品の完成を目指します。その他、加工に必要な様々な技術を学びます。	2・後	90	3			○	○			○	

授業科目等の概要

(工科技術専門課程機械設計科) 令和4年度															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
34		○	インターンシップ	企業で就業体験することで、仕事への取り組み方や考え方を学びます。作業現場での人間関係なども体験します。	2 ・ 後	30	1			○		○	○		
35	○		卒業製作	卒業制作において設計手順を経て設計計算書、図面、部品加工、組立作業までを一貫して行い、製品を卒業制作展に出展します。	2 ・ 通	180	6			○	○		○		
合計						35科目		1890単位時間( 89 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1650時間(76単位)および選択科目60時間(2単位)以上取得し、合計1710時間(78単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	30週